

たかつき市民活動ネットワーク NEWS

(NPO法人たかつき市民活動ネットワークの略称:TCAN)

2016.12.24 第55号

発行 : NPO法人たかつき市民活動ネットワーク

〒569-0078 高槻市大手町6-24

TEL/FAX: 072-674-1959

<http://tcan.la.cocacn.jp/>

社会貢献のひろば 2016

10月15日(土)、16日(日)に第8回食の文化祭が行われ、TCANも例年通り城跡公園にて8回目となる、『社会貢献のひろば』を担当しました。

今年もより多くの方に社会貢献活動を身近に感じ気軽に参画していただけるようにアピールしました。



城跡公園の会場にはたくさんの方々に来場していただき、社会貢献活動に賛同して下さったことに深く感謝いたします。そして、一緒に盛り上げて下さった参画団体の方々も本当にありがとうございました。

TCANはブースでの出店はありませんでしたが、食の文化祭実行委員会直営のスタンプラリーを担当しました。2日で1000個景品を用意しましたが、ほぼなくなるくらい大盛況でした。スタンプを集めたらiPadでガラガラ抽選に挑戦できるという企画で、多くの子どもたちと触れ合うことができとてもうれしそうなTCAN会員でした。

これからも、色々な分野の団体が新たに参画してくだされば、社会貢献のひろばの発展にもつながると思います。それは間口が広がることにより、より多くの方に社会貢献を身近に感じていただくきっかけを増やすことにつながると思います。

実行委員会としても、今年の反省点もふまえ、来年はさらに盛り上げていけるように努力していきたいと思っています。

NPO協働フェスタ

10月8日(土)第12回NPO協働フェスタが開催されました。今年も、TCANはフリーマーケットブースで『社会貢献の広場in協働フェスタ』として参加しました。今年も2団体(ふれ愛たかつき・花の会)が出店しました。どちらも障がい者福祉サービス事業所で作られた製品の販売でした。私はもちろん自分のところの『おからかりんとう』販売を担当しました。



何年か続けて出店していますので、以前購入して下さったお客様が『美味しかった』と声をかけてくださり今年も『友だちにあげるねん』と言ってたくさん購入していただけました。

今年は、協働フェスタには史上最大の団体が参加だったそうですが、フェスタに来られていた一般市民は少なかったように思います・・・特に若者の姿は少ないな～と思いました。若者がボランティア活動に興味を持ち活動に参加してくれる。そんな機会を作っていく必要があるな～と実感した一日でした。

佐藤

サロン団談「市民活動をデザインする」から

10月22日、サロン団談を開催した。TCANでは「PPPつながりたい」事業で、協働を働きかける行政に、市民活動が上手く機能する条例(市民参加条例)の制定を主張し続けている。市民活動を、それを繋ぐイメージとして情報発信していただくなら、どんな意見・主張になるのか語りあってみるのが狙いである。

市は市民活動を「市民が自主的・主体的に営利を目的にせず公益に寄与する」ことだと定義するが「自分にとっての市民活動は、これだ」を発言していただくことだ。

小さなことから、大きなことまで、やっていることから、やりたいことまで、イメージは拡散し多様な・多面的になる。それ故、参加者の発言は「個人一人三分以内、質問・意見一人一分以内」のルールのもとにスタートする。



参加者は14名で、市会議員現職3名、元議員1名、それに吹田・茨木から2名、他はTCANの会員である。全員の発言は、やっている経験の中から、こうしたらのアイデアとも絡み、希望を模索する。そして未来への警鐘へと広がる。内容はバラエティに富むものだ。

この討議を聞かせていただきながら、最近話題のAI知能ロボットならどのような発言をまとめるだろうかと思った。その人の発言から、その人を知りワイワイと創り上げていく場づくりは不思議とエンパワーメントを喚起する。こんな所から市民活動の集団力が生まれるのだと確信出来た会合であった。(詳しくはHPをご覧ください)

●提案の広場に「高槻市市民参加条例の制定」を再提案

TCANでは2013年に「高槻市市民参加条例」の制定を提案しましたが、市からの回答は「必然性や規定すべき内容について検討する必要がある」。

また2016年8月30日(火)には、「高槻市市民公益活動推進方針」に規定されている「第三者機関の設置」について、提案の広場を通じて提案しましたが、市からの回答は「現在のところは、第三者機関などの審査機関の設置は考えておりません」というものでした。

さらに、市民活動を市民の立場で具体的に行いやすくするために、「高槻市市民参加に関する指針」と「高槻市市民公益活動推進方針」を統合した「高槻市市民参加条例」の制定を2016年11月11日(金)、提案の広場を通じて濱田剛史市長あてに再提案しました。しかし市からの回答は、『条例化については慎重に検討する必要がある』というものでした。これらの経緯を踏まえ、高槻市における市民活動がより活発になるために、さらなる活動を続けていきたいと思っています。

●ザ・ギャラリー北摂連絡会

2016年11月17日(木)、みんなの家にて「ザ・ギャラリー北摂連絡会」の2016年度第4回例会が開催されました。

この会では北摂7市1町の市民、議員、元議員有志により議会改革を目指しており、お互いの市町の議会の動きの情報と意見交換のために、年4回例会を開催しています。今回の例会では高槻が当番を務めました。高槻からはTCAN理事の山下と藤田、市議会議員2名が参加しました。

今回の例会では、9月議会でのトピックスを中心に発表と意見交換がなされました。高槻は「行政サービスコーナー廃止」「高槻市市民参加条例制定の再提案」「高槻市立地適正化計画(素案)」などについて発表しました。次回の例会は2017年2月15日(水)に豊中市立千里公民館にて開催されます。どなたでも傍聴可能ですので、奮ってご参加ください。

サロン団談「歴史の中のボランティアを学ぶ」

～心に響く先人の活動と想い～から

12月13日、サロン団談の第4回を実施した。一昨年刊行された「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」(明石書店)がNPO学会賞の最優秀賞(林雄二郎賞)を受賞されている。ゲストはTCANの副理事長でもある牧口明さんだ。B5版747頁の大著の編集者の一人として、構想から7年間を経て世に問うた不屈の精神に拍手を贈りたい。参加者は8名で、あたかもTCAN役員研修会のようにじっくり心に滲みる内容であった。



今回は、特に編集の過程で興味を惹き、心に届いた先人にスポットを当て牧口さんの想いと重ねてお話ししていただくことにした。

牧口さんが選んだ先人は ①民権ばあさん楠瀬喜多 ②明治・大正期の「企業社会貢献」活動の巨人・大原孫三郎 ③廃娼運動から婦人参政権獲得運動への久布白落実 ④ハンセン病患者への差別と闘った小笠原登 ⑤「近江学園」創設と糸賀一雄・田村一二・池田太郎 の5名である。

- ・ 楠瀬喜多は土佐の人だ。明治11年、男性の多額納税者のみに選挙権があるのはおかしい。世帯主を継いだ女性にもしかるべし「人、髭あるが故に貴からず」と願い出て、結果として地域限定で許可される。世界で二番目に女性参政権を獲得した。
- ・ 大原孫三郎は倉敷の人だ。倉敷紡績、倉敷レーヨン(現クラレ)の経営の傍ら、大原美術館、大原社会問題研究所(現・法政大学に移管)、大原倉敷中央病院等を設立。今で言う企業社



会貢献家で多くの若き人材を育てた。

- ・ 久布白落実は、熊本藩士の横井小楠の親戚筋。
- ・ 同志社大学に縁ある徳富蘇峰の姪にあたる。大正期に飛田遊郭設置に反対して運動を起こしたが、途中の挫折で婦人参政権を訴える。日本聖公会の大阪川口基督教会を拠点に府庁へのデモを行う。昭和7年に発刊された『貴女は誰!』(牧口五明書店・50銭)牧口さんにつながる縁との実本紹介。不思議なファミリー・ヒストリーを感じる。
- ・ 小笠原登は、愛知県の大谷派のお寺に生まれる。祖父は僧侶・漢方医で、ハンセン病、梅毒を親切に治療した。その影響からか京都大学医学部助教授のおり、「ハンセン病発現は体質を重視すべきで不治でも無い」と当時主流の隔離策に敢然と対決した。
- ・ 鳥取県出身の糸賀一雄は、京都大学卒業後、小学校の代用教員を経て、1940年滋賀県の社会教育主事補になる。戦後混乱の中、田村、池田の懇願を受け、知的障害児と要養護児童(孤児)の「近江学園」を創設する。日本障害福祉を切り拓き「日本の障害児教育と福祉の父」と呼ばれる。『この子らを世の光に』(柏樹社)この子らに、ではないことを強調される。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ(ビスマルク)」の言が浮かんだ。私たちはこの先人から何を学ぶのか。この大著はみんなの家に常備している。機会を見て手にとってご覧になることをお勧めしたい。(内容をもっと詳しく知りたい方はHPをご覧ください)

◇TCAN事務局だより

2017年度の通常総会は、5月13日(土)を予定しています。

2017年度の活動計画を決めるTCANとして最重要の行事です。役員改選期でもあります。また2017年4月1日付けにて施行される「改正NPO法」に準じて、定款の改訂が議題化される予定です。～各位の参加を期待します～

TCAN今後の予定

◆**理事会の開催**：1月からは2017年度通常総会の準備協議を開始致します。従って、毎月第2/第4金曜日の2回開催となります。当座は1/13、1/27、2/10、2/24が予定されています。TCAN会員の総力結集です。積極的参加・傍聴を期待します。会員は裁決には参加できませんが、発言はフリーです。

◇**不定期の行事**（PPPつながりたい、サロン団談、CB研究会など）の開催については、TCANメーリングリストや都度作成のちらしにて広報拡散を図ります。

◆**みんなの家管理運営協議会** <奇数月；第3金曜日 ⇒1/20(金)、3/17(金)>

恒例のみんなの家「餅つき大会」を2017年度は中止といたしました。代わりに、2017年1月20日(金)に新春「ちゃんこ雑煮懇親会」を開催します。楽しみましょう。

日時・場所；2017年1月20日(金)18時30分～TCAN事務所のあるみんなの家(高槻市大手町6-24)で
参加費；1,500円

◇近隣マンションの親子さんや城跡公園へのハイカーの自主参加などもあり、地域とのつながりのある行事でしたが、高齢化・少子化の波をかぶりました。2018年の再開を計画できることを祈念します。

<事務局雑感> 情報化社会のあり方についての私見！

世の中、どんどん便利になっていく。後期高齢者になった下名が子どもだった頃と直近の世界とは様変わりしてしまっただけとも言える。「むかしは良かった」というのは高齢者の愚痴であろうか？東京オリンピック前の一般家庭は、電化製品としてラジオが普通で、ブラウン管テレビなどは兆しの時代であったと思う。暮らしも素朴であり簡素だった、と言ったら語弊があるかも知れない。今の暮らしは一変し、食べるもの着るものも変わり、暖房・冷房も当たり前となった。

縄文時代、弥生時代、古代、中世、近世となり、今は何？情報化時代！コンピューター/パソコンの時代？携帯電話は当たり前。検索サイトのYahooができたのが1990年代とか。

私たちは通信サイトやSNSを適正に健全に利用しているだろうか？そこにもモラルがあると認識しているだろうか、倫理感をもって取り扱っているだろうか？人と人のつながりの道具であるということを忘れていたような気がしないでもない。因みに下名は滅多矢鱈に情報を授受しないことにしている。発信では単なる情報提供か、返信/回答の要求か、を明確にしているつもりである。受信後の返信/回答では、ネガティブ情報は個人ベースで、ポジティブ情報は団体拡散ベースで返信することを心がけている。極力、フェイス トウ フェイスの会話・対話を優先させ、電話での対話を優先させている。見方によっては時間スピード感覚の中で迷惑を掛けているかも知れない。「会話」は親しい同志のおしゃべり、「対話」は異なる価値観のすり合わせ、である。「討議」は自分の価値観や論理をもって相手を説得し、論破することが目的のもの。

大衆迎合主義と称される“ポピュリズム”はマスコミのミーハー的情報の悪弊と思っている。一見「対話」のようであるが、稚拙と評価している。自分なりの判断を促すマスコミ報道の工夫を願いたいものである。(飯村)

編集後記—今年最後の会報となりました。色々な出来事が思い起こされます。皆さまはどのようなことが一番心に残ったでしょうか？来年は酉年、皆さまにとって良い年でありますように。 丸居・牧口